

令和元年度

No.	区分	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
1	総合教育センター	研究院派遣による学校支援に関する研究(理科)	藤岡 達也	県総合教育センター 小倉 啓嗣	不破徹也(係長) 多田尚平(研修指導主事) 田中美甫(研究員)	滋賀県総合教育センターでは、令和元年度「問題解決の力の育成を目指した小学校の理科の授業づくり」を主題とした研究員派遣による学校支援に関する研究を実施し、大学担当者としてもトータルアドバイザーとして、これに指導・助言を行う。今年度は研究協力校として野洲市立三上小学校、近江八幡市立八幡小学校で実施する。
2	総合教育センター	滋賀県学校安全教育推進プロジェクト	藤岡 達也	滋賀県教育委員会 事務局 保健体育課 國松 茂樹	永井泉(主幹) 伊部学(指導主事)	滋賀県の地域や通学路等、学校の状況を踏まえながら、実態に応じた学校安全の在り方を明確にし、県下における学校安全の推進を図る。具体的には、生活安全、交通安全、災害安全の教育内容、方法について、滋賀県内の取組事例の収集・分析等をもとに各学校への指導・支援を通して探る。特に滋賀県の学校安全に関する課題を掌握・整理することによって、本学、教職大学院の実習、授業の教材化を図る。
3	総合教育センター	プログラミング教育プロジェクト研究 教科等における学びと プログラミング教育を有機的に つなぐ授業づくり ープログラミング教育サポートパック の開発を通してー	○松原 伸一	県総合教育センター 所長 小倉啓嗣	小林高章 (研究員)	滋賀県総合教育センターの研究事業(プログラミング教育プロジェクト研究)と連携し、「教科等における学びとプログラミング教育を有機的につなぐ授業づくりープログラミング教育サポートパックの開発を通してー」に関して共同研究を行う。
4	総合教育センター	外国語科プロジェクト研究外国語 によるコミュニケーションを図る 資質・能力の育成を目指す 小・中学校の円滑な学びの接続を 可能にする授業づくり	○大嶋 秀樹	県総合教育センター 所長 小倉 啓嗣	田中 妃登美(研究員) 山本 毅 (主幹) 中川 恵美子(主査)	令和2年度小学校・令和3年度中学校から全面実施の改訂学習指導要領のもとでの、外国語(英語)のコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す、小・中学校の円滑な学びの接続を可能にする授業づくりについて、指導と評価の系統性を踏まえた教育実践研究を、滋賀県のモデル研究事業として実施し、成果の発信を図る。研究の途上の事業では英語教員を目指す滋賀大学教育学部学生・大学院生が事業に参加・支援する。
5	総合教育センター	科学的に探究するために必要な 資質・能力の育成を目指した 高等学校理科 の授業改善	滋賀大学 教育学部 准教授 加納 圭	県総合教育センター 所長 小倉 啓嗣	研修指導主事 三木 崇史	科学的に探究する学習活動としてパフォーマンス課題を取り入れ、評価については多面的・多角的な評価となるよう工夫することで、探究の過程の充実に向けた指導と評価のあり方を探る。これらにより、高等学校理科の授業改善を図り、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す。
6	甲賀市教委	「書くことで自分が学びを豊かに することができる子どもの育成」 ～「読むこと」における「考えの形成」 を視点にして～	教育学部 (国語教育) ○准教授 長岡 由記	甲賀市教育研究所	甲賀市教育研究所 研究員 田中 由紀子	主体的に学び合うことのできる国語科授業をつくるために、学習者が学ぶ目的意識をもって対話的な学習に取り組み、自分の学びを書くことを通して自覚化できるようにすることを取り入れた授業を計画・実施し、発話分析を中心とした授業分析を行うことで授業改善のための要点を明らかにする。
7	甲賀市教委	「算数・数学科における学びのつながり をめざした授業改善」 ～ 子どもが自ら学び、表現し、ともに深 め合う授業づくり ～	教育学部 (数学教育) 講師 渡邊慶子	甲賀市教育研究所	甲賀市教育研究所 課長補佐 松尾 圭三	「問題理解」研究を背景にした教材や授業展開に関わる研究を通して、子どもたち自身の考えを数学的に簡潔・明瞭・的確に表現させる意義と方法を明らかにすること。
8	大学	滋賀県高等学校部活動における 指導者リーダーシップに関する 調査研究	○奥田 援史	滋賀県高等学校等 教育研究会	保健体育研究部会会長 今井義尚 (大津商業高校校長)	昨今、部活動指導者の暴力等の問題が頻発している。そこで、本調査では、高校運動部における指導者がどのようなリーダーシップを発揮しているか、またそのリーダーシップと部活動所属部員のやる気等との関連性について検討する。

9	大学	滋賀県における幼児の運動能力に関する研究(2019年度)	○奥田 援史	滋賀県教育委員会	スポーツ・健康課 (指導主事、村部謙介)	本研究では、滋賀県における幼児運動能力調査を実施し、その結果報告書を作成することが目的である。この調査は本県では2014年度から実施し、今年度で6回目である。
10	大学	今までの学習を生かし、課題に取り組む子に育てるための授業づくり(第1候補)	○畑 稔彦	長浜市立長浜北小学校 橋 憲照	教諭(研究主任) 金沢 秀太郎	日々の授業で表面的な問題解決の姿のみをとらえ、子どもの素直な思考の発揮の場を提供できないままの授業から、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決していく子どもを育てる授業の在り方を探る。
11	大学	中学校に設置された通級指導教室における指導・支援のあり方について	窪田 知子	高島市立高島中学校 (小中一貫校高島学園)	内藤 孝(校長) 大村 敦世 (通級指導教室担当教員)	今年度、高島市では中学校に初めての通級指導教室が設置され、中学生への指導・支援が始まった。しかしながら、中学校の通級指導教室は全国的にみても小学校に比べて設置教室数が少なく、まだ具体的な指導・支援のあり方について模索段階であるといえる。また、高島中学校は小中一貫校であることから、現在、小学生と中学生が同時に通級している。そこで本研究では、中学校の通級指導教室の役割と具体的な指導・支援のあり方について検討する。
12	大学	理科指導力向上研修の企画研究～小学校理科 観察実験指導のコツを学ぶ～	○糸乗 前 徳田 陽明	東近江市蒲生西小学校 校長 西田 栄宏	大津市CST代表者: 蒲生西小学校 校長 西田 栄宏 研修担当:南郷里小学校 教諭 森田 博 研修担当:虎姫小学校 教諭 大橋 良平	小中学校理科の教科書に基づいた観察、実験を安全に楽しく指導するために、教師が様々な体験をすることで、児童の実感を伴った理解に繋げることに重点を置いた研修を企画する。
13	大学	理科指導力向上研修の企画研究～苦手分野から応用まで～	○徳田 陽明 糸乗 前	大津市立仰木中学校 校長 古川 恵子	大津市CST代表者: 瀬田中学校 教諭 荒川 拓也 研修担当:仰木中学校 教諭 池内 伸圭 研修担当:長等小学校 教諭 田中 憲治	小中学校理科の教科書に基づいた観察、実験を安全に楽しく指導するために、教師が様々な体験をすることで、児童の実感を伴った理解に繋げることに重点を置いた研修を企画する。
14	大学	確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成(第2候補) ～わかった・できたを実感できる授業を通して～	○畑 稔彦	豊郷町立豊日中学校 高畑 裕之	教諭(研究主任) 長澤 和馬	昨年度、D資料の活用(次期学習指導要領では「データの活用」)の実践事例が多領域に比べて少ないことから、重点的に研究を進め教材を作成した。生徒の主体性を引き出すために、授業実践をもとにそれらをリデザインする。 中学校の校内研究を活性化させるための手立てを実践的に研究する。
15	大学	美術科の実践力育成に関する共同プロジェクト 第1位	○新関 伸也	滋賀県中学校 美術教育連盟 委員長 梶岡 創	安曇川中教諭 堤 祥晃 (副委員長) 瀬田北中教諭 北崎 丈士 (研究部長)	★以下の目的で、授業力向上のためのグループ別研究会を行う。 ・公開授業者だけでなく、多くの教員に学びが共有できるシステムをつくる。 ・複数で授業づくりをすることで、多角的、客観的な教材研究につなげる。 ・実践した成果を学生と共有し、教員として必要な資質能力を育成する。

16	大学	鑑賞学習ルーブリックを活用した授業実践に関する研究Ⅱ 第2位	○新関 伸也	高島市立安曇川中学校 下澤 辰次	教諭 堤 祥晃	鑑賞学習ルーブリックを活用した鑑賞の授業について、実際の教育現場で実践した成果や教育的意義を学生と共有し、教員として必要な資質能力を育成する。
17	大学	特別支援学校における音楽づくりの授業開発プロジェクト(2)	○林 睦	滋賀県立新旭養護学校 川村 誠	岡ひろみ (滋賀県立新旭養護学校教諭)	特別支援学校の音楽づくりを教師とゲストティーチャーと学生が協働して授業実践し、大学教員も参加して協議を重ねることで、生徒が主体的に参加できるための授業開発を行い、さらに学生の学びにも生かすことが目的である。
18	大学	通級指導教室等の子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究(2)	○川島 民子 奥田 援史 山本 一成	草津市立渋川小学校通級指導教室(校長 清水 康行、通級担当 太田 恵) 草津市立矢倉小学校通級指導教室(校長 大林 道範、通級担当 西田史子)	太田 恵 (草津市立渋川小学校通級指導教室)	不器用で、運動が苦手と言われる発達性協調運動障害の可能性をもった通級指導教室等の子どもを対象に、通級指導教室等での学習活動について、事例を通して検討し、協調運動面を向上させる学習活動、指導内容・方法を明らかにする。
19	大学	学力向上プロジェクト(第3候補)～わかった・できたを実感できる授業を通して～	大野 裕己 ○畑 稔彦	豊郷町教育委員会事務局学校教育課課長 八木佐登留	豊郷町教育委員会事務局学校教育課課長 八木佐登留	豊郷町教育委員会では、管内の小中学校の教務主任を集め、新学習指導要領に向けたカリキュラム・マネジメントについて研修を実施しており、本事業は学術的側面から支援をすることを目的としている。
20	大学	石山っ子わくわく親子で畑体験隊 1	○森 太郎 與倉 弘子 久保 加織 石川 俊之	大津市石山公民館 小松文郎	石山公民館 生涯学習専門員 小松文郎	農作物の栽培や観察など実体験を重視して農と食の大切さを理解し、食の安全・安心について考えるような「食農教育」が求められている。しかし、学校現場において、そのニーズに対応できるプログラムの確立、対応できる教員の確保は不十分である。そこで、地域の住民と連携(公民館、ボランティアスタッフ)して、小学生の親子を対象に畑体験活動を実施し、「食農教育」の地域連携プログラムを開発する。さらに、教育学部の学生が主体的にプログラムを計画・実施する場を設け、教育現場において「食農教育」に対応できる人材を育成する。
21	大学	地域の伝統野菜の栽培を核としたカリキュラム・マネジメントモデルの開発2	○森 太郎	甲賀市立甲南第二小学校 山本 寛	教務主任 菰田智恵 第三学年担任 大菅将史	教育内容の構成が他の教科と異なり、子供の活動に寄り添った授業展開が求められる教科・領域である生活科および総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを実施することが望ましいと考える。総合的な学習の時間の学習材として地域特産の農産物の栽培が多く为学校で行われているが、カリキュラム・マネジメントの観点から、教科横断的な教育内容、実施に必要な人的・物的な体制の確保、実施の評価と改善について十分ではない。そこで本研究では、滋賀県甲賀市の杉谷地区で栽培されている伝統野菜「杉谷なすび」と「杉谷とうがらし」を学習材としてカリキュラム・マネジメントの実施モデルを開発する。
22	大学	学校アート化計画『グリーンちゃんがやって来た』	藤田昌宏 (美術教育)	草津市教育委員会生涯学習課、草津市立矢橋ふたばこども園、大津市立青山小学校	山本一成課長補佐、松岡秀樹(草津市生涯学習課)開教頭先生(矢橋ふたばこども園)田中誠校長先生、中川理恵先生(青山小学校)	過年度に引き続き、草津市教育委員会との連携(参照、滋賀大教育HP https://www.edu.shiga-u.ac.jp/news/6402/)を本プロジェクトの中心に据えて継続拡大していきます。子どもたちの過ごす学校園という空間をアート作品で「異化」するもので、子ども等が身の回りの様々な事象を再発見することを促します。そこから生まれる色々な反応を教員と共有し、新たな可能性を探ります。